

令和4年度 タウンミーティング (第20回)

「水辺でまったりポスターセッション in 神山町 大埜地の集合住宅  
～水質浄化池から、川と暮らしのつながりを考える #2～」

開催主旨

■神山町大埜地集合住宅に整備されている「水質浄化池」について、環境調査や除草作業、風景体験実験などの経過報告を通して、今後の活動展開を考える。

開催日：令和4年10月1日(土)

場所：神山町大埜地の集合住宅 水質浄化池の  
ほitori (名西郡神山町神領大埜地 374)

主催：徳島大学人と地域共創センター

共催：一般社団法人神山つなぐ公社  
徳島大学環境防災研究センター

後援：神山町

内容

(1) 開会挨拶

徳島大学人と地域共創センター

副センター長 山中 英生

(2) 第一部 トークセッション

「水質浄化池での活動を通じて考えていること」

[パネラー]

一般社団法人神山つなぐ公社 高田 友美

徳島大学環境防災研究センター准教授 山中 亮一

[進行]

徳島大学人と地域共創センター講師 森田 椋也

(3) 第二部 ポスターセッション

① 水質浄化池の環境調査 経過報告

徳島大学社会基盤デザインコース 4年  
環境衛生工学研究室 小川 翔

② 大埜地の集合住宅における選択除草の取り組み

徳島大学社会基盤デザインコース 4年  
都市デザイン研究室 前田 拓真

③ 池からの風景：Float, Rotate, SPECULATE

徳島大学人と地域共創センター講師 森田 椋也

(4) コメント・統括

ランドスケープ・デザイナー プランタゴ代表 田瀬 理夫

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取組について協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で20回目となった。

神山町内で降った雨や暮らしの中で使った水は、すべて町の中央を流れる「鮎喰川」にそそぎ込んでいる。鮎喰川の近隣にある大埜地の集合住宅では、敷地内の排水を合併浄化槽で処理し、その排水をさらに水質浄化池を経由させて川へと放流する取組を行っている。生活と鮎喰川の結

びつきが目に見えるように設計されたこの水質浄化池は、様々な動植物が生態系をかたちづくるのが期待されるものである。

今回は、水質浄化池で昨年来行ってきた徳島大学の活動を踏まえて、環境調査の経過や除草作業の取り組み、風景体験の実験に関して、トークセッションやポスターセッションを行うことで、多様な生き物がすまい、子どもたちが水遊びもできる鮎喰川を育てていくための、今後の活動展開へとつなげることを目的に開催した。

行事には地域住民や関係者約30名が参加。参加者は、登壇者による周辺地域での選択除草をはじめとする取組等の話に熱心に耳を傾け、隣を流れる鮎喰川の未来に向けた環境や生態系の保全について考える機会となった。



タウンミーティングの様子



会場隣の鮎喰川



ポスター



チラシ

令和4年度 徳島大学地域交流シンポジウム (第19回)

「徳島県の災害ケースマネジメントをどう進めていくか?」(第3回)

開催主旨

■徳島県内での大規模災害発生時における県民の生活再建困難者の減少を目指して、今回は「災害ケースマネジメント」の手法や手段について学び、徳島での実践について考える。

開催日：令和5年2月23日(木・祝)

場所：徳島大学フューチャーセンター A.BA  
(徳島市南常三島町1丁目1番地)

主催：徳島大学人と地域共創センター、徳島大学環境  
防災研究センター

共催：徳島県

内容

[司会] 徳島大学人と地域共創センター

学術研究員 井若 和久

(1) 開会挨拶

徳島大学人と地域共創センター センター長 田中 俊夫

(2) 第1部 講演

演題 「最近の被災者支援の課題と災害ケースマネジメントの進め方」

一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎

(3) 第2部 グループワーク

テーマ 「災害ケースマネジメントの模擬体験と参加者から講師へのなんでも相談」

① 「災害ケースマネジメントのアセスメント調査と結果判定の模擬体験」

② 「災害ケースマネジメントに関する参加者からの疑問の抽出・整理と講師の回答」

[講師]

・一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎

(4) 閉会挨拶

徳島大学環境防災研究センター センター長 上月 康則

地域交流シンポジウムは、本学が地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一環として実施しているもので、19回の開催となった。

近年、自然災害が毎年のように全国各地で発生し、生活再建が困難な被災者が多数発生している。東日本大震災以降、被災者への支援方法として、“被災者一人ひとりに寄り添い、個別の被災の影響を把握することから支援計画を立て、施策をパッケージングし支援を実施していく仕組み”として「災害ケースマネジメント」が注目されている。そうした中、徳島県では2022年6月に災害ケースマネジメントを盛り込んだ条例改正を行い、国の手引書作成と並行して県の手引書作成を進めている。

第3回目となる今回は、2016年熊本地震や2018年7月豪雨等、全国各地の被災自治体から業務委託を受けて災害ケースマネジメントを実施して来た一般財団法人ダイ

バーシティ研究所代表理事の田村太郎氏を講師に招き、県民をはじめ行政・社会福祉協議会・士業・NPO法人・防災士・研究者などを対象に開催し、県内外から46名の参加があった。

第1部では、田村氏から「最近の被災者支援の課題と災害ケースマネジメントの進め方」について講義いただき、第2部では、「災害ケースマネジメントの模擬体験と参加者から講師へのなんでも相談」をテーマに、参加者でグループワークを行い、相互理解を深めた。

南海トラフ地震などの大規模災害の発生が想定される徳島において、災害ケースマネジメントの内容・進め方の理解と参画意欲の向上を図る貴重な機会となった。



シンポジウムの様子



チラシ

## 「徳島大学・明治大学・徳島県連携事業」

### 事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的としている。

#### 2. 連携事業

第9回目となる連携事業は、徳島大学が主担当となり、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として、令和4年12月2日（金）にオープン講座「自転車交通の未来を考える—社会を変えるトランジション・マネジメントの思考から—」をオンラインで開催し、139名が受講した。

日本政府は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを2020年10月に宣言している。このカーボンニュートラルの実現において、温暖化ガスの排出がない移動手段として着目されている自転車。サイクリングは、全身を使う有酸素運動であるにも関わらず、足や膝への負担が少ないため、健康増進の観点でも自転車の活用が近年推進されている。しかし、日本の自転車は世界的に高い利用率を誇るが、自転車事故比率を鑑みると、先進国としては決して安全とは言えない。

2012年「安全で快適な自転車通行環境のガイドライン」

### 事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域・産官学連携担当)、副学長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880  
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

を契機に車道中心の通行環境整備が始まり、2018年には「自転車活用推進法」が制定され、利用環境整備ともに、教育、観光、スポーツなどの活用施策が全国で進んでいる。一方で、電動スクーターなど新しいマイクロモビリティが現れ、多様な交通モードが街でどのように共存するかが課題となっている。

今回の講座では、このような未来を考え、改革を目指す「トランジション・マネジメントの思考と試み」を明治大学専門職大学院の松浦正浩教授から。先進的な改革を進めた金沢市の事例紹介「金沢市における自転車施策の成功とその鍵」を徳島大学大学院社会産業理工学部の山中英生教授から。多様な交通モードの共存の考え方について、茨城大学の金利昭名誉教授から「多様なパーソナル・モビリティの共存にむけて」と題し、それぞれ講演いただいた。また講演後は、Zoomのチャット機能の活用し、受講生からの質疑応答を行った。

地域社会と自転車の共生について、また自転車交通の未来を考える機会となった。

#### 3. 事業実施による成果と今後の課題

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当として開催している。

このほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業やフィールドワークの開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な事業を実施しており、今後も連携を継続していく。

## 地域交流の拠点「ガレリア新蔵」

### 事業のポイント

- 展示室の常設パネルを用いて、徳島大学を広く紹介する。
- 企画展示などにより、徳島大学が所有するシーズ情報を発信する。
- ギャラリーフロアを学内外の団体やサークル等に貸し出し、展示や催しなどの利用に供する。
- 平成18年度開設。令和4年度までに239回の展示会等の催しを実施。

### 事業の概要

#### 1. ガレリア新蔵の概要と目的

ガレリア新蔵は教育、研究及び社会貢献の進展に資するとともに、広く社会に向けた情報発信と地域住民との交流の場とすることを目的とした施設である。本学の地域連携・国際交流の拠点として、その趣旨に賛同された日亜化学工業株式会社のご厚意を受けて設立された日亜会館の1階に設置されている。

展示室では、教育・研究等、本学の様々な活動を取り上げた「企画展示」を大学広報の取組として行っている。ギャラリーフロアでは、学内外の団体やサークル等に貸し出し、展示や催しなどの利用に供することで、地域交流の場として利用されている。

#### 2. 企画展示開催状況

今年度は令和4年10月20日～令和5年2月28日の期間、第32回企画展「阿波の名医」をガレリア新蔵「展示室」にて開催した。江戸時代末期から近年にかけて徳島で活躍した医師たちをまとめ、その業績や医療・社会活動を紹介した本学卒業生の板東浩氏の著書『阿波の名医』を題材として、徳島大学医学部医学科同窓会である青藍会の後援のもと本企画展を実施。相対性理論で有名なアインシュタイン博士を治療して交流を続けた外科医・三宅速（美馬市出身）といった日本の医療界に顕著な貢献をした医師のほか、初代学長中田篤郎をはじめ本学の発展に寄与した人物を特集し、パネル等で紹介した。

また、関連企画として、令和4年12月18日に三宅速の功績を多面的に紹介するトークイベント『<sup>ていだん</sup>鼎談 三宅速』を現地会場であるギャラリーフロアとオンラインのハイブリッド形式にて開催し、約120名が聴講した。

本イベントでは、三宅速が第一外科初代教授を務めた九州大学の出身である医学部の島田光生教授より「引導をわたせる医者となれ」、三宅速が日本で最初に脳腫瘍手術に成功したことに関して脳神経外科医である永廣信治名誉教授より「脳神経外科手術の先駆者」と題し、三宅速が残した医学的功績などについて語られた。また、祖父が三宅速の門下であった薬学部の笠原二郎准教授より「顕彰と継承」と題してゆかりの写真やエピソードを紹介いただいた。続いて、アインシュタイン博士の提唱のもと設立され

### 事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域・産官学連携担当)、副学長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: galleria@tokushima-u.ac.jp

たテクニオン-イスラエル工科大学との連携担当である福井清副学長進行の下、講演者3名による鼎談を行い、三宅速とアインシュタイン博士との交流、徳島とのゆかりや受け継がれている医師の精神など、多面的に語った。聴講者からは「徳島に関わる偉人を掘り起こして、地域として共有していく活動は、今後の地域活性化を考えるとときに重要な要素だと思った。」などといった声が聞かれ、地域が生んだ名医・三宅速を見つめ直す機会となった。

本企画展の開催を通じて、徳島が生んだ偉人たちの功績を掘り起こし改めて人や地域、国のつながりを認識する契機として、地域住民や医療関係者の方をはじめ多くの関心をもつ方々に訪問いただき、ガレリア新蔵、日亜会館の目的である地域交流の場につなげることができた。引き続き本学では地域の知の拠点として、ガレリア新蔵を通じた情報発信と交流を進めていく。



企画展「阿波の名医」の様子

関連企画「鼎談 三宅速」の様子

#### 3. ギャラリーフロアの利用法等

ギャラリーフロアを利用希望の方は、下記の「ガレリア新蔵Webサイト（URL）」で、「ご利用案内」から「ギャラリーの貸し出し」のページをご覧ください。使用申込にあたっては、サイトに掲載している申請書にご記入の上、「〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地 徳島大学総務部地域創生課地域連携係」まで郵送してください。

ガレリア新蔵Webサイト:

<https://www.tokushima-u.ac.jp/gs/>

